

平成 24 年度事業報告

平成 24 年 3 月 1 日から平成 25 年 2 月 28 日までの事業報告

1 会員状況

1.1 法人会員および団体会員

| 級 種 | 平成 24 年度末 | 平成 23 年度末 | 増 減 |
|-----|-----------|-----------|------|
| 1 級 | 11 社 | 11 社 | 0 社 |
| 2 級 | 6 社 | 6 社 | 0 社 |
| 3 級 | 19 社 | 20 社 | -1 社 |
| 4 級 | 31 社 | 32 社 | -1 社 |
| 5 級 | 73 社 | 73 社 | 0 社 |
| 計 | 140 社 | 142 社 | -2 社 |

1.2 個人会員

| 種 別 | 平成 24 年度末 | 平成 23 年度末 | 増 減 |
|------|-----------|-----------|-------|
| 正会員 | 1147 名 | 1197 名 | -50 名 |
| 永年会員 | 45 名 | 49 名 | -4 名 |
| 名誉会員 | 12 名 | 12 名 | 0 名 |
| 学生会員 | 71 名 | 49 名 | 22 名 |
| 計 | 1275 名 | 1307 名 | -32 名 |

1.3 名誉会員（12名）

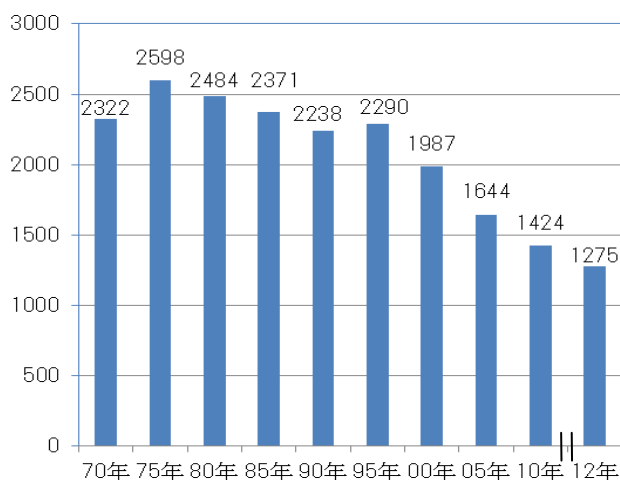
阿河 利男 池田 功 伊藤 俊洋 大城 芳樹 大場 健吉 荻野 圭三
北原 文雄 田嶋 和夫 常盤 文克 二木 鋭雄 橋本哲太郎 早野 茂夫

1.4 日本油化学会フェロー（8名）

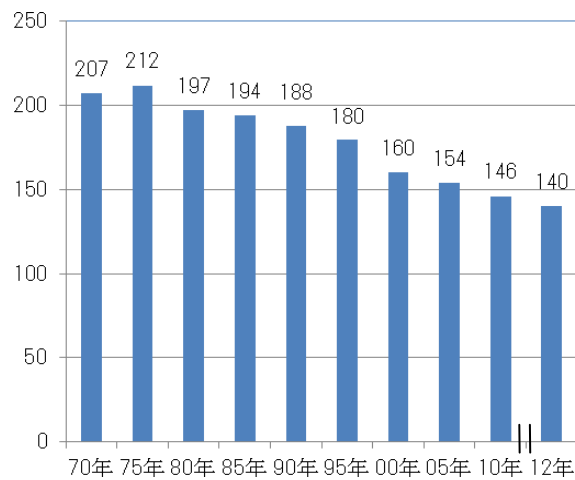
石上 裕 菊川 清見 佐藤 清隆 菅野 道廣 妹尾 学 戸谷洋一郎
師井 義清 Ching T. Hou

1.5 会員数の推移（個人・法人）

個人会員数の推移



法人会員数の推移



2 会務

2.1 総会

第 58 回定時総会を、平成 24 年 4 月 25 日、油脂工業会館 9 階会議室で開催した。委任状提出者、書面による表決者を含めて 904 名の社員の出席を得て議案を審議した。平成 23 年度事業報告および決算案、定款の一部変更の案が審議され、いずれも原案通り承認・可決された。また、24 年度役員を選任が行われた。

ひきつづき、表彰式が行われ、つぎの各氏が推戴・表彰された。

- ① 日本油化学会名誉会員に、(財)北里環境科学センター理事長 伊藤 俊洋 氏が推戴された。
- ② 日本油化学会フェローに、東京薬科大学名誉教授 菊川 清見 氏が推戴された。
同じく本会フェローに、成蹊大学名誉教授 戸谷洋一郎 氏が推戴された。
- ③ 日本油化学会功績賞が、本会元副会長 竹原 将博 氏に贈呈された。
同じく本会功績賞が、本会元副会長 佐藤 征 氏に贈呈された。
- ④ 平成 23 年度日本油化学会学会賞および進歩賞が次の各氏に贈呈された。
 - ・学会賞 東京理科大学理工学部 湯浅 真 氏
 - ・進歩賞 東京理科大学理工学部 酒井 健一 氏
- ⑤ 日本油化学会女性科学者奨励賞が、ライオン株式会社 三宅 深雪 氏に贈呈された。

つづいて、講演（演題・講師：「ゲル濾過 HPLC のリポ蛋白研究に果たす役割」・岡崎三代氏 [東京医科歯科大学名誉教授]）が行われ総会に関するすべての行事が終了した。総会後の懇親会は、八重洲富士屋ホテルで開催され、50 余名が出席した。

2.2 理事会

定例理事会は 5 回開催し、平成 23 年度決算案の承認、平成 24 年度会長、副会長および常務理事の選定、運営委員長、各業務委員長、各支部長、各専門部会長等の選任、日本油化学会フェロー、功績賞、女性科学者奨励賞および日本油化学会学会賞等の選考、平成 26 年度(第 53 回)年会開催地の決定および実行委員長の選任、アジア海外会員等の新設を目指した定款の変更の案等、重要案件について審議し決議した [出席理事 延 59 名、出席監事 延 15 名]。別に、定款第 34 条に基づく決議(書面による審議と同意)を 2 回実施し、内閣府に定期的に提出する書類を承認した。

2.3 運営委員会および業務委員会等開催状況

運営委員会を 6 回、支部長連絡会を 1 回開催した。なお各業務委員会等の開催数は次のとおりである。

| | | | |
|---------------------|-----|-----------------|------|
| 総務委員会 | 4 回 | 選挙管理委員会 | 1 回 |
| 企画・部会統括委員会 | 4 回 | 規格試験法委員会(含小委員会) | 9 回 |
| 企画・部会統括委員会全体会議 | 2 回 | 基準油脂分析試験法改訂 WG | 13 回 |
| 役員等候補者推薦委員会 | 1 回 | 学会賞等選考委員会 | 2 回 |
| 編集委員会 | 6 回 | 功績賞等推薦委員会 | 2 回 |
| 国際交流委員会(含拡大委員会) | 1 回 | マスターズクラブ幹事会 | 5 回 |
| WCOS2012 委員会(含小委員会) | 7 回 | オレオサイエンスフェア委員会 | 6 回 |

運営委員会は、アジア地区の油化学の発展と本会会員増強を目指し、アジア海外会員とアジア海外学生会員の新設を理事会に上程した。総務委員会は、具体的な定款の変更の案を検討し、理事会に上程した。また、議決権(代議員の選挙権、被選挙権)付与範囲の拡大について検討に着手した。財務委員会は、公益社団法人日本油化学会として最初の決算(平成 23 年度決算)案を理事会に上程した。さらに平成 25 年度予算書を理事会に上程し、また平成 24 年度決算書(案)を作成した。理事会は、アジア海外会員とアジア海外学生会員の新設を承認・決議した。

企画・部会統括委員会は、アドバンスセミナーを企画・開催した。規格試験法委員会は『基準油脂分析試験法』改訂のため WG を精力的に開催し、改訂版を発行した。また、各委員会は、創立 60 周年記念

事業として、『60周年記念誌』の出版、『オレオサイエンスフェア』の開催、60周年記念式典および記念講演会の開催等を行った。

3 事業報告

3.1 研究成果の公開，人材教育，研究の奨励及び業績の表彰を行う事業（公1）

3.1.1 研究成果の公開

3.1.1.1 世界オレオサイエンス会議 [World Congress on Oleo Science & 29th ISF Congress (WCOS 2012) -JPCS/AOCS/KOCS/ISF Joint Meeting-]

東日本大震災の影響受け，平成24年度に延期されたが，第50回および第51回年会と併せて開催した。概要は以下のとおりである。なお，優秀なポスター発表15件に対しポスター賞 (Outstanding Poster Presentation Award) を授与した。

期 日：平成24年9月30日（日）～10月4日（木）

会 場：アルカス SASEBO（長崎県佐世保市）

内 容：①参加者数：25の国と地域より530名（うち海外89名）

②講演件数：348件（口頭発表 180件（海外71）；ポスター発表 168件（海外12））

| | | |
|-----|--------------------------------|-------|
| 内 訳 | ・ 基調講演 | 6 件 |
| | ・ 分野横断型 (Interdisciplinary) 講演 | 9 件 |
| | ・ JPCS/AOCS ジョイントシンポジウム | 12 件 |
| | ・ JPCS/KOCS ジョイントミーティング | 10 件 |
| | ・ ISF プレナリーレクチャー | 3 件 |
| | ・ 受賞講演 | 3 件 |
| | ・ 一般講演 | 137 件 |
| | ・ ポスター発表 | 168 件 |

②茶道体験コース 参加者数 45名

③ウェルカムパーティー 参加者数 約200名

④バンケット（ハウステンボス） 参加者数 280名

WCOS2012 開会に先立ち9月30日（日）に，本会創立60周年を記念した式典を，同会場にて，下村脩先生（ウッズホール海洋生物学研究所）はじめ多くの方々を来賓にお招きして開催した。阿部正彦会長の挨拶の後，前日本化学会会長の岩澤康裕先生，AOCS 会長の D. Myers 先生，朝長則夫佐世保市長，安部直樹長崎国際大学学長に本会への激励のお言葉を頂いた。続いて，北原文雄本会名誉会員に「60年の歩み」と題し，ご講演頂いた。北原先生は，オレオサイエンスが目指すものは”Oleo for Beauty and Healthy”であると結論づけられた。

その後，日本油化学会創立60周年記念講演会を開催した。一般の市民の方々も含め，約1000名の方々に参加頂いた。「未来を拓く サイエンス × イノベーション」をテーマとした講演会の概要（演題，講師）は以下のとおりである。

①「決して諦めないーオワンクラゲとの出会いと絆」下村脩先生（ウッズホール海洋生物学研究所）

②「ものづくりを変えたクロスカップリング」宮浦憲夫先生（北海道大学大学院工学研究科）

③「エコイノベーションが実現する ころ豊かな毎日」尾崎元規先生（花王株式会社）

3.1.1.2 フレッシュマンサミット (OSAKA , TOKYO)

学生ならびに若手研究者を対象とした研究発表会を，大阪，東京の2会場で本年度も開催した。概要は以下のとおりである。

(1) 日本油化学会フレッシュマンサミット OSAKA 2012

今井喜胤実行委員長を中心に実行委員会を組織し，準備及び運営を行った。特別講演は，日清オイリオグループ(株)青山敏明氏により行われた。一般講演は，2会場で行われた。実行委員会は，学生奨励

賞に 10 名を選考し、授賞した。

期 日 : 平成 24 年 11 月 11 日(日)

会 場 : 近畿大学本部キャンパス

内 容 : ① 参加者総数 106 名
② 講演件数・特別講演 1 件
・ 一般講演(口頭発表) 41 件
③ 情報交換会 11 月 11 日(日) 17:15~19:00

(2) 日本油化学会フレッシュマンサミット TOKYO 2012

後藤直宏実行委員長を中心に実行委員会を組織し、準備及び運営を行った。特別講演は、油脂産業技術部会長の(株)カネカ納庄康晴氏により行われた。一般講演は「界面化学」「油脂系」の 2 会場で行われた。実行委員会は、学生奨励賞に 10 名を選考し、授賞した。

期 日 : 平成 24 年 11 月 28 日(水)

会 場 : 東京海洋大学品川キャンパス

内 容 : ① 参加者総数 106 名
② 講演件数・特別講演 1 件
・ 一般講演(口頭発表) 47 件
③ 情報交換会 11 月 28 日(水) 17:30~19:30

3.1.1.3 日本油化学会会誌(論文誌・会員誌)の発行

(1) 「Journal of Oleo Science」誌 第 61 巻 第 1 号~12 号 総ページ数 748 ページ

論文誌として、冊子版と電子版を発行しており、第 61 巻は原著論文 91 件を掲載した。また、ページ外で、投稿規定、入会案内等を掲載した。なお、Thomson Reuters 社より、2011 Impact Factor 値が公開され、1.417 であった。

| | | |
|------|--------|------|
| 掲載内容 | 報文 | 75 件 |
| | ノート・速報 | 15 件 |
| | 総説 | 1 件 |

(2) 「オレオサイエンス」誌 第 12 巻 第 1 号~12 号 総ページ数 674 ページ

特集 11 件および総説 2 件を企画したほか、引続き「解説・ここが知りたい!」や新たに「講座」を企画してホットでわかりやすい情報を 4 件掲載した。また、巻頭言、表彰、会務、学会情報、研究室紹介、Q&A など会員に役立つ情報を中心とした会員向けの情報誌として編集した。ページ外で、会告、目次等を、446 ページ編集した。

| | | |
|------|-----------------------|-------|
| 掲載内容 | 特集総説・単報総説 | 38 件 |
| | 解説・ここが知りたい | 3 件 |
| | 講座 | 1 件 |
| | 研究文献抄録 | 81 件 |
| | 国際油脂情報 | 155 件 |
| | その他(巻頭言、表彰、学会等報告記事など) | |

3.1.2 人材教育

本部主催の人材育成事業は、企画・部会統括委員会を中心に企画・実施し、フレッシュマンセミナー(油脂)、フレッシュマンセミナー(界面)、アドバンスセミナー(油脂)、アドバンスセミナー(界面)の 4 件を行った。フレッシュマンセミナーのテキストには 2009 年 3 月に改訂・刊行した日本油化学会編纂の教本「油脂・脂質の基礎と応用(改訂第 2 版)」および「界面と界面活性剤(改訂第 2 版)」を使用した。参加者数は延 221 名であった。

若手の会委員会は、8 月にサマースクールとして「界面科学の基礎から最近の話題まで」をテーマと

した講演会を開催し、産学官の若手研究者の交流を深めた。

3.1.3 研究の奨励・業績の表彰

本会では、油脂・脂質、界面活性剤及び関連分野の科学・技術の進歩を奨励すると共に、著しい成果をあげた研究者を表彰している。平成 23 年度の主な受賞者を、本報告の会務・総会の項で紹介した。平成 24 年度も、若手の研究者を奨励するための日本油化学会進歩賞、学生奨励賞の授与者を選考した。また、研究成果を表彰するため、日本油化学会学会賞、エディター賞、オレオサイエンス賞、ベストオーサー賞等授与者を選考した。また本会に貢献した会員として功績賞授与者を選考も実施した。第 59 回定時総会の席上等で表彰する。

3.2 評価・試験法の標準化と普及を行う事業（公 2）

油脂および油脂製品の研究や品質管理等におけるデータの利用については、統一された試験法により得られたデータであることが強く求められている。その基準となる分析試験法として『基準油脂分析試験法』を刊行しているが、平成 24 年度は、改訂作業 WG を精力的に開催（13 回）し、改訂版（2013 年版）を刊行した。また、品質管理や研究開発を担う技術系職員及び学生の一般知識の向上と評価・試験技能の向上を目的として、11 月に第 10 回界面活性剤評価・試験法セミナー、第 12 回基準油脂分析試験法セミナーを開催し、日本油化学会が制定した試験法の普及を図った。セミナー参加者は延 70 名であった。

3.3 地域における学術の振興と普及を行う事業（公 3）

各支部による講演会・セミナー等を、例年に倣い開催した。また、各支部主催の講演会・セミナーの企画を充実させるため、幹事会等を下記のとおり開催した。

[支部委員会等の開催]

- ・関東支部 常任幹事会 3 回、事業企画委員会 3 回、支部分科会 2 回
- ・東海支部 常任幹事会 3 回、支部合同幹事会 1 回、支部将来計画委員会 1 回
- ・関西支部 常任幹事会 1 回、常任幹事会・幹事会合同会議 3 回

[支部の行事開催]

各支部による講演会、セミナー等の行事は、延 13 回開催し、参加者数は延 682 名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延 48 名であった。

- | | | | | |
|-------|------|-----|------|-------|
| ・関東支部 | 開催回数 | 3 回 | 参加者数 | 182 名 |
| ・東海支部 | 開催回数 | 5 回 | 参加者数 | 213 名 |
| ・関西支部 | 開催回数 | 5 回 | 参加者数 | 287 名 |

このうち、(財)油脂工業会館共催の地区講演会は、10 月に仙台市（関東支部）、11 月に上田市（東海支部）、岡山市（関西支部）、12 月に金沢市（関西支部）の 4 ヶ所で開催した。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を行い、地域における学術振興・普及に努めた。

また、本会が創立 60 周年を迎えたこと、公益社団法人として新たな第一歩を踏み出したことを記念して、一般の方々（幼稚園児から大人まで）を対象に、日常生活とオレオサイエンス（油化学）との深い関わりを知って頂くためのイベント「オレオサイエンスフェア」を 8 月 3 日、4 日に、関東地区（慶應義塾大学日吉キャンパス）にて開催した。約 1000 名の方々に参加頂いた。

3.4 学術専門分野の活性化事業（公 4）

専門部会活動については、前年同様、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、オレオライフサイエンス部会、油脂産業技術部会、オレオナノサイエンス部会および食品油脂機能構造部会が活動を展開し、それぞれの専門分野を深耕した。講演会、セミナー等の行事は、延 16 回開催し、参加者数は延 856 名を数えた。

オレオマテリアル部会は、関東地区（テーマ名：「最新の紫外線防御技術と今後予想される課題への対応」）と関西地区（テーマ名：「マテリアル開発を支える表面観察・分析技術」）でそれぞれ講演会を

開催した。界面科学部会は、関東、東海、関西、九州の各地区でセミナー・講習会を開催し、最新の研究成果の発表や研究者交流を行った。洗浄・洗剤部会は、第44回洗浄に関するシンポジウムを開催した。特集講演4件、一般講演3件、口頭発表12件、ポスター発表12件を行った。オレオライフサイエンス部会は、部会セミナー「海洋性生物と機能性物質—その新しい展開」を開催した。油脂産業技術部会は、部会セミナー「油脂加工プロセスの上流から下流まで」、部会ワークショップ「油脂の結晶多形」を開催した。オレオナノサイエンス部会は、「オレオナノサイエンスと皮膚科学」と題したシンポジウムを開催した。食品油脂機能構造部会は、WCOS2012にて、Food Structure & Functionality/FSFFセッションを2日間にわたり主催し、口頭発表21件を行った。今後も、油化学会活動の基盤は専門部会活動が担うとの共通認識のもと、常に独自性、さらにグローバル視点も意識しながら学術専門分野の活性化・強化に努める。また、マスターズクラブは、講演会開催に加え、「はばたけ！オレオサイエンス」第2集の編纂に着手した。

各支部及び専門部会は、それぞれのリーダーの指導の下、独自に運営を行っているが、企画・部会統括委員長が年2回開催する全体会議で相互の情報交換などを行い、必要に応じスケジュール等の調整を行った。